

## 令和5年度 第1回高齢者福祉部会 会議内容概要

と き	令和5年7月12日(水) 14:00~15:35
と ころ	近江八幡市総合福祉センターひまわり館 1階ホール
出席者	塚本部会長、西川副部会長、東森委員、石黒委員、中谷委員、大西委員、谷委員、高橋委員、中村君枝委員、岡山委員、森田委員、安部委員 (12名)
欠席者	岡田委員、中村公彦委員、森村委員、岩越委員
傍聴者	なし
事務局	長寿福祉課
議事事項	<p>○報告事項</p> <p>(1)「近江八幡市の高齢者を取り巻く現状」(2)「アンケート調査結果の概要」</p> <p>○審議事項</p> <p>(1)「第8期市総合介護計画 基本目標に対する評価」</p> <p>(2)「第8期市総合介護計画 2025年に向けた方向性に対する取組実績および評価」</p>
内 容	<p>○開会あいさつ(塚本部会長)</p> <p>○配布資料確認(事務局)、委員の交代・出席状況の報告</p> <p>○報告事項</p> <p>(1)「近江八幡市の高齢者を取り巻く現状」(2)「アンケート調査結果の概要」</p> <p>* 事務局説明</p> <p>・統計データからみる市の状況、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査の結果について報告。</p> <p>* 主な意見等</p> <p>・要介護認定率の推移について、滋賀県、全国は右肩上がりで微増しているが、実は、近江八幡市だけは、逆に下がってきている。どのような要因が考えられるのか。</p> <p>→本市では、平成13年度～退職後男性の閉じこもり予防と銘打ち、定年退職後に役割を見失いやすい男性の方が、地域に戻られたときに閉じこもらないようにしていくことを目的に事業を推進してきた。また、いきいき百歳体操に代表される通いの場を増設し、身近な地域で介護予防や仲間づくりに取り組める環境整備、さらには介護予防・生活支援サービスの部分では、通所型サービスA・通所型サービスCの設置や離島である沖島で、訪問型サービスCを新規創設し、介護予防の充実を図ってきたことが、分析は不十分だが要因として考えられる。</p> <p>・総合事業ができたことにより、地域包括支援センターに相談をいただけたら、介護認定を受けずに、総合事業に繋げていくことはできている。一方で、かなり重い状態で、初回認定される方がおられるので、もう少し早期の段階から申請をされた方がいいと思う。</p>

○審議事項

(1)「第8期市総合介護計画 基本目標に対する評価」

\* 事務局説明

\* 主な意見等

・基本目標2 健康に留意してすこやかに暮らせるの評価項目「75歳～84歳の要介護認定率」について、この8期の策定時が令和2年で14.5%という数字ですが、令和7年の目標値が17.5%ということで、現状はその策定時よりまだ低い。令和5年の1月末で達成状況は二重丸という評価だが、少し分かりにくい。目標設定の際にどういう議論があったのか、教えていただきたい。

→一般的には、後期高齢者が増加していくので、認定率は上昇していくが、上昇率を鈍化させるために、いろいろな地域のつながりや、通いの場等、そういったものを作りながら介護予防に努める中で、介護保険のお世話にならなくても、なるべく健康な時期を長く過ごしていただくというところで、いろんな取り組みをしている。認定率が、何によって下がっているのか、分析を進めて明確にしていかなければならないと思う。

→前回計画の策定メンバーの大半が代わっているので、想定として分かりづらいところはあるが、目標設定値を全国の認定率をもとに出して、少しでも下げていくんだという取り組みであったのではないかと思う。

・西部地域においては、核家族が多く支える人がいない。家族の中で誰かが動いている間は、何とか地域や家族が支えられるが、介護者が倒れたときに、在宅に1人で認知症の方を生活させることについて、地域での見守り支え合いだけではなかなか難しい。小規模多機能型居宅介護が、このようなケースの支援を担っているが、そこが役割を担えなくなってきたら、施設にという流れになるのかなと思う。

(2)「第8期市総合介護計画 2025年に向けた方向性に対する取組実績および評価」

\* 事務局説明

\* 主な意見等

・フルタイムまたはパートタイムで働いている方の割合について、現在、目標達成ができていないと評価されているが、これはどういう形で達成していこうと思っておられるのか、そのあたりが、9期計画の中に入ってくるのか、聞かせていただきたい。

→ニーズ調査の結果から、自立高齢者の就労意欲が非常に高いというデータが出ている中で、やはり介護予防とかそういった居場所だけではなく、働ける方は就労というところに結びつけていく必要性が出てきているのではないかということ強く感じている。具体的には、生活困窮者や障害の方等の就労の確保の話を含めて考えていく必要があり、シルバー人材センター、企業、商助の登録事業者等とニーズを共有し、そういった場面を作っていけるように協議を始めていきたい。

・専門職の方が様々な会議等に参加していただき、評価の視点として、その満足度というか、ケアマネジャー自身がそういうサービスの参加の中でどのような満足度を得られているか、また住民の方も様々な取り組みに対して満足度というか、そのようなことを把握する調査についても難しさはあるが、1度検討してみてもよいのではないかと。

・老人クラブに補助金を出したら、市内の全ての高齢者団体に行き渡ってるような感じになっているが、今ものすごく弱体化している。かつて青年団が栄えていたが、今はもう衰退してなくなっている。かつて婦人会女性会と言って頑張っていたけど、もう女性団体連合会もなくなっており、時代が変わってきている。おやじ連だとか、高齢者が生き生きと頑張ってる組織は、他にも市内にいっぱいあるので、そういう任意団体の人や地縁活動に頑張ってもらえるよう意識を変えていかなければならないと思う。

○閉会あいさつ

・第8期計画の評価や課題を踏まえて、第9期計画の策定につなげていただきたい。